

議題 コナラ林の管理について

I 山田緑地における植生管理手法について

1 現状

・保全区域の管理が基本計画に沿って行われておらず、植生全体の照葉樹林（陰性高木林）化が進んでいる。

2 課題

- ・植生の二極化（陰性高木林－草地）が進む。
- ・植生の単純化による園内散策の魅力低下

3 対応

- ・整備前、山田緑地の植生は幾種かの代償植生を中心として構成されており、保全区域はこの植生を維持していくゾーンとされている。
- ・各区域における植生管理を計画に沿って行うことで公園区域内において陰性高木林（保護区域）→陽性高木林、低木林（保全区域）→草地、裸地（利用区域）を維持、創出していく。
- ・植生遷移各段階の植生を山田緑地の土地利用の変遷（自然地→里地→弾薬庫→公園）と関連付け、人と自然との関わりの歴史を知る場とする。

4 効果

一般利用面

多様な自然を楽しむことができる観察路の維持、創出による園内散策の魅力向上

教育利用面

多様な生態系の活用による自然学習プログラムの充実

研究利用面

学術的に解析された多様な植生管理技術の蓄積と継承



学習施設としての山田緑地の機能強化

学習施設としての機能を有する山田緑地においては来園者の利用段階をステップアップしていく仕組みが必要である。各利用段階の成果をフィードバックすることで「利用の場」としての質の向上を図る。さらには来園者が興味関心を深め、利用段階を進めることができる環境を整える。

